

校史編纂委員会発足

独立80周年記念事業

昭和五十一年度の同窓会総会で校史編纂の決議がなされ、五十二年より資料委員会が活動しております。本年二月、編纂委員会が発足し、各委員会の活躍により、十五年の独立八十周年に向けて着々と母校の校史編纂が進んでいます。

かねてより準備を進めて来ましたが飯田高等学校の編纂につき最近の様子を報告し、編纂に必要な資料の提供につき同窓生各位の御協力を是非お願いいたします。

主任 宮下正人

各委員は八つの班に分れた項目別に各班が分担してこの四月より執筆に入りました。

昭和五十一年度の同窓会総会において高校史編纂の決議がなされ、五十二年に資料委員会の発足と活動が開始されました。各委員の熱心な努力が実り各々の資料が着々と集りつつあったところ、五十三年二月に新たに編纂委員会が新設され活動を始め、五十五年の八十周年を期しての高校史の編纂が具体性を増して来ました。

編纂委員会の編成は次のようです。

委員長 大沢和夫
副委員長 林緑、平田英夫

- 一、制度 教育制度変遷
 - 二、創業 創立と独立
 - 三、学校組織(含施設)
 - 四、教育内容
 - 五、学園生活
 - 六、学校周辺 卒業生他
 - 七、エピソード
 - 八、年表その他
- 右の項目を次の時代順に書いて行くことにする。なお時代区分については種々話し合いの結果次の通りにした。
- 独立前期(明一五〜三二)
創業期(明三三〜四五)
独立期(大六一〜一五)
拡張発展期(昭元〜一一)
戦時期(昭一二〜二〇)
戦後期(昭二〇〜二三)

飯田高校同窓会報

第15号

長野県飯田高等学 同人窓会 長雄 敏
行 校逸人武所 印刷
行 集 行 武 所 印刷
飯田下 編 澤 印 共 同 印刷
長野 飯田 吉 飯

明治三十五()の校友会誌をはじめ各種の資料が集められそのリストも作られているが、まだまだ不十分にて執筆の参考にしたくもないものがある。同窓生各位にお願いして資料の充実拝借をはかりたいのでよろしくご協力ください。

各班から次の資料についてご存知の方は是非拝借させていただくよう依頼があり、その節は飯田高校同窓会館事務局平田英夫あてへ連絡をお願いします。

第二班より
明治一五〜一六年度までの下伊那中学校、明一七〜一九年までの長野県中学校飯田支校、明治二六〜三三年独立までの長野県尋常中学校飯田支校、以上の様子を知ることの出来る史料

定期総会予告



宮内邦子氏

下久堅出身、東京外語大学(ロシア語)卒業、直ちに防衛庁航空隊監理部へ勤務。昭和三十一年防衛庁防衛研究所に勤務する以前に、ユーゴに一年間留学、又モスクワに行かれていた。

現在、ソ連軍事理論の研究に専念されている。

○期日 八月二十日(日)午後一時
○会場 飯田高校同窓会館
○記念講演
講師 宮内邦子氏(高4回)
演題 「ソ連の軍事力とアジアへの進出」

△講師紹介△

高校期(昭二三〜現在) このうち高校期については戦後学制が全く変わったので新制高校の卒業生の中から資料委員を出すことにして資料委員会が結成された。これは資料委員会の第五小委員会となるものである。正副委員長次の通り。

委員長 吉川利彦(高6)
副委員長 平沢満彦(高11)
〃 矢沢章弘(高18)

この中から編纂委員を選出して執筆してもらうわけだが旧制中学時代と新制高校時代を分けた。

只今同窓会館資料室には 一五、昭四、九、一九、

23回 高松祭へ



◆ぜひお出掛けを!
七月十五日(土)十六日(日)

中庭のフジ

第六班より
次の面々活躍している卒業生について(含故人)

- 一、文芸(創作、詩、小説)
- 二、芸術(音、書、美、劇)
- 三、学術研究
- 四、政界
- 五、経済(財界、大会社)
- 六、スポーツ(記録保持者)

以上の人を(氏名) (該方面) (卒業回数)を明記して送ってください。

第七班より
各卒業年度の幹事の方々既にお願いしてある同期生のエピソードは母校在学当時において強く印象をうけた出来事、クラブ等の華やかな活躍、名物先生の話などあらゆる特筆すべきと思われる「学園こぼれ話」を各回必ず投稿してください。原稿用紙は既に幹事の方へ送付してあります。

編纂委員会各班の要望は以上のとおりですがご連絡期日は整理の都合上、六月末日までをお願いします。

(北原明治)
既に投稿していただいた中に次のようなのがありました。

鉄拳制裁事件
これは当時五年生であった諸君のうち有志十九名が下級生の中に不良生徒がいたので学校には予告せず(大正十年月)の寒い時に全校生徒を中庭に集め、その面前で約十名ばかりの生徒に十九名の者が全員代る代るに鉄拳の制裁を加えた事件であったが、これを機会に校風が非常によく変わったことであった。申し開きをした者は更に鉄拳を加えられたとすることで相当厳格であったことが伺われる。

(宮下)

お別れしてから、もう二ヶ月近くになります。時の経つのが早くて驚きます。段々落ちていくにつけ、妙なもので一層強く飯田が思い出されます。

或る人が北信は白、中信は黄だと云いますので、それは何の事だと言ふと林檎の花の白、山吹きの黄が象徴的だとの事です。私は思わず飯伊はピンクだと割り込みました。それは何だと言ふので、桃の花であると答えました。云わでものこと



新校長 牛山之雄氏

東の間の花流しけり
 函書館に詩人黄眠先生の扁額「静修」が掲げられています。気品の高さは、この門に入る者の襟を正さ



前校長 吉沢順氏

を、むきになってしまおうのです。桜を見れば今年も校庭はどんなだったろうか、つつじを見れば歌碑の庭は……と見るにつけ、聞くにつけ思い出は懐しく有難く鮮明です。

五年前着任して途方に暮れていた時、希望の像の碑

ご挨拶

しめるものがあります。日夏先生に限らず、幾多の人材俊秀たちの奇特の花を咲かせたこの学園のルーツは一体何なのか、貴種の花を思う心は日増しに昂まっています。

飯田に参る前、佐久の野沢での生活の締めくくりに私は、K先生の瀬下敬忠また別のK先生宅の光淋の意匠による乾山の硯箱、鉄斎の小品、比田井天来の六曲屏風を拝観することで心を鎮めて来ました。文化の貴種の地下茎を見た思いがしたわけですが、その時「正師にあわされば学ばざるに如し」ときっぱり言わ

なし得た多くの事は皆様の御陰でありました。重ねて感謝申し上げます。

私の人生の最後の五ヶ年間が、こんな素晴らしい思い出で充満しているのですから私は幸福です。今後も私のできることであればお役に立ちたいと思わずにはおられません。

御会の益々の御発展と会長始め皆様様の御健勝を心から御祈念申し上げます。退任の御挨拶にさせていただきます。有難うございました。

草創の頃

明治十八年頃の服装
 長野県中学校飯田支校当時
 (以上いずれも大場勉氏蔵)

去る四月九日、高森町産業会館に於いて町内在住の同窓生三十余名が合同して高森支部が結成され、左の者が役員として選任された。

会長 加藤清敬(中39)
 副会長 平沢久雄(中37)
 幹事長 本島武彦(中38)
 幹事 宮島哲夫(中44) 宮下次吉(中47) 原貞雄(高7) 大島広司(高12) 片桐和夫(高18)

又中10回代の大先輩六名は顧問に、20回代の先輩十九名は全員相談役に就任されることになった。当日出席の最古参中16回林小六先輩の乾杯に始まり、一番若手の高17回池田茂穂君の万才で会を閉じるまで、歡を尽くし松下同窓会長も途中から臨席、校歌・応援歌に青春を偲び先輩後輩手を携えて今後の親交を期し楽しい一日であった。(加藤清敬)

支部だより

東京支部 十一月九日、九段の私学会館において催される。大世帯なので毎年というわけにはいかない。住所の異動も激しいだろうしそれだけに通知するにも、会場を設定するにも大変な労苦があると思われる。本部からは松下下会長が出席した。

豊丘支部結成総会 十一月二十六日、天竜大会館において催された。支部長に河野一馬氏(中20)が選出された。

下条支部 二月十日、天竜映しぶき荘に於いて催された。

松本支部 二月二十五日、松本信州会館で催された。本会からは会長と倉沢教頭さんが出席された。

高森支部結成 去る四月九日、高森町産業会館に於いて町内在住の同窓生三十余名が合同して高森支部が結成され、左の者が役員として選任された。



明治十八年頃の服装 長野県中学校飯田支校当時 (以上いずれも大場勉氏蔵)

独立記念日

記念講演とクラリネット演奏

講師 小笠原長孝先生

(中・四六回卒)

明治三十三年から教えて七十八回目に当る独立記念日の四月十五日、飯田中学第四十六回卒の小笠原長孝先生をお迎えして、記念講演とクラリネット演奏をお聴きしました。

ト演奏に移り、協奏曲イ長調ほか数曲を独奏して下さいました。日頃音楽に縁のない私達も、先生の奏でるクラリネットの音色にすっかりとりこにされ、しばし時のたつのも忘れて聞き入りました。

記念行事の前半は、終戦直後の混乱期に中学を卒業し、しばらく小学校の代用教員を務めたのち上京され血のにじむような努力を重ねられて、今日の地位を築いたという、先生の半生をお話し下さいました。

後半は専門のクラリネット演奏に、先生のクラリネット演奏に加えて、奥様の声量豊かなソプラノ独唱を拝聴する機会に恵まれたことは、重ねがさねの喜びであり、小笠原先生ご夫妻の音楽は新体育館に集結した生徒・職員を完全に魅了し、かつ堪能させるものであり、本当に有意義な独立記念日でした。



昭和三十一年に始まった強歩大会も、回を重ねて第二十二回を迎えましたが諸般の情勢に鑑みて、夜間強歩の実施は不可能であるとの結論に到達し、今年

は新たな計画のもとに昼間強歩に切り換えて、四月二十八日に

約一年を費やして慎重に検討した結果、ルートは若干の問題を含みながらも、大平コースに到着しました。朝のラッシュ時には市内を通り抜けることには危険が伴うとの理由で、スタート地点を今宮球場に設定し、男子は鳩打峠から大平をへて帰校する四十五KM、女子は大平街道を飯田峠折返して三十五KMの距離に、千余名が健脚を競いました。

昭和二十三年に学制改革が行ないました。石ころだらけの山道には多少の抵抗を感じたかも知れませんが、結果的には九十八・五%という高い完歩率を取ることができたことは、天候に恵まれたこともさることながら、生徒諸君の意志と根性を高く評価してやりたいと思います。

形勢を異にこそすれ、強歩大会は母校の伝統行事として、今後も継続していくことでしょう。夜間強歩を実施してきた二十余年間、

甲子園めざして 闘魂燃ゆ

春季飯伊地区リーグで優勝し、昨年の春季に続き三季連続優勝。春季優勝は、四年連続優勝と記録を更新して、名実ともに飯伊に敵

昭和十七年春、白線に穂の帽章をつけて飯田中学に入学したが、勉学は殆ど犠牲にされ、勤労奉仕と工場作業の明け暮りで、昭和二十年の敗戦を迎えた。三年生の夏のことである。戦後は物資不足から教科書はなく、食糧は極端に不足して、弁当を持って来れない生徒が多かった。昭和二十一年春、全校二日間の野草取り休暇があつて、代用食糧採取のためリュックを背負いモチ草取りに行ったりした。

四年生になってやっと敗戦の虚脱感から立ち直り、ゲラ刷りのような新聞紙を折り畳んだ教科書が配給になり多少とも学生らしい生活が始まった。

昭和二十三年に学制改革が行ないました。石ころだらけの山道には多少の抵抗を感じたかも知れませんが、結果的には九十八・五%という高い完歩率を取ることができたことは、天候に恵まれたこともさることながら、生徒諸君の意志と根性を高く評価してやりたいと思います。

甲子園めざして 闘魂燃ゆ

春季飯伊地区リーグで優勝し、昨年の春季に続き三季連続優勝。春季優勝は、四年連続優勝と記録を更新して、名実ともに飯伊に敵

▲旧制最後の四十七回生 昭和十七年春、白線に穂の帽章をつけて飯田中学に入学したが、勉学は殆ど犠牲にされ、勤労奉仕と工場作業の明け暮りで、昭和二十年の敗戦を迎えた。三年生の夏のことである。戦後は物資不足から教科書はなく、食糧は極端に不足して、弁当を持って来れない生徒が多かった。昭和二十一年春、全校二日間の野草取り休暇があつて、代用食糧採取のためリュックを背負いモチ草取りに行ったりした。

▲合同同級会 旧中十五回から十九回までの方々、つまり七十五才から八十才頃の大先輩連が昨秋十一月、喬木村の保養センターで、合同の同級会を持たれた。東京・大阪方面からも集まっていたの、なつかしい、若返りの会合だったという。この年令になれば五つ位の年令差は問題にならないだろうが、それにしても共通の飯田中学時代の話題で青春時代を語り合うという、そして今尚お心を満たす魅力がいつ引きつけているものがあるという仲間関係を羨ましいとは思いませんか。

同級会 全国から八十名の級友と恩師諸先生が参集され、早逝された級友十五名の追悼法要が同窓会館で行われた。三十二年前の八月十五日、敗戦の日の思い出が甦り、戦時中の苦しい農作業や、鷲津・横須賀等の軍需工場で空襲を受けながら仕事をした当時を思い返し、又子科練や軍人学校での激しい訓練にと、それぞれ思いを馳せながら往時苦楽を共にした級友との絶大なご協力をいただいた同窓生各位に感謝するとともに、今後ともよろしくお願いたします。

南信春季体育大会結果

南信春季体育大会結果			
【卓球】			
<男子>団体	1位		
個人シングルス	3位2名	ダブルス	2位
【剣道】			
<男子>団体	3位	個人	1.2位
<女子>個人	2位		
【軟式庭球】			
<男子>団体	2位	個人	2位
【サッカー】			
<男子>個人	1位		
【陸上】			
<男子>総合	3位	3000W	2位
		走幅跳	1位
		円盤投	1位
		ハンマー	1位
		投	2位、3位
<女子>800M	1位		

敗。この九年間に春は四回の南信優勝を為しとげ、まさに、春の王者飯田ではあるが、今年も戦力も充実しており、甲子園へのチャンス到来と、二十余名の部員は、一丸となって、技を磨き、精神を鍛練し、練習に励んでいる。

同流会の記

信濃の南、竜峡の畔に立てし 自治の村
竜、江、路、代、四ヶ村に育まれたる 健男児
去る二月十八日、天竜峡みやこグランドホテルの一室より、初老、中老……
鬢に霜をおき、髪の薄きも苦にせぬ年令の面々の、四十年、五十年、さらに六十年前の青春を偲ぶ歌声が高らかに響きわたった。

同流会、それは飯田中学に学ぶ竜丘村、竜江村、川路村、千代村の四ヶ村の生徒たちによる自治の会であった。

市瀬仙市氏を代表に各地区から一名ずつで臨時発起

人を作り、同流会思い出の会をもったのであった。

同流会の大家であった黒河内英達氏(中33)など招待客を交えて三十三名、中九回から中四十回まで年令に開きはあるが、皆元気に青春の思い出の期を一にした集りとなった。自己紹介も熱が入って長時間、酒はさめても此の雰囲気こそ最高の盛り上りと思えた。

女学生を見ようと同流会の屋根に上り屋根を痛めて大家さんに叱られたとか、つらかった夜行軍のこと、野営にはつきもののアタックのこと、試験会や、グスク、ジャパンのことなど、予定

より二時間もおくれ役員選出となる。

名譽顧問 清水直次郎中9
顧問 熊谷 次郎中18
会長 清水 又美中19
幹事長 市瀬 仙市中26
幹事 伊藤 祐春中27
" 笹岡 秀郎中28
" 小本曾儀人中36
" 安藤 弥重中34
" 今村 盛英中35
" 藤本 芳郎中29

同流会員は、伊那電鉄が天竜峡まで開通し、昭和三年から電通生が出来るまでは、徒歩で通学するか、飯田町近辺に自治寮の下宿生活をしたわけで、それが同

流会と名づけられていた。

同流会は、飯中第三回の代田市郎(伊原純二)下田文一(清水章)安藤弥太郎(いずれも故人)の方々が恵那山に登山し、赤石山系の下、悠久と流れる天竜川を俯瞰し、命名発足したものであるという。此の会の後、清水直次郎先輩を訪ねた。米寿の高齢尚かくしゃくとして、更に驚くべきは英字新聞「ザ・マイニチ」を卒業以来継続して読まれそれを切り抜きファイルされていっているという。翁の話によると、同流会の水の手にあり、又大久保に移ったという。又、会長清水又美氏(中19)の話では、同流会は大正四年頃は東野にあり、その後永代橋に移り、さらに上溝の天野屋の長屋を借りた、と。

窟は転々と変ったが、毎月一回の例会は必ずあり、各自演説を行い、これの出米ぬ者は一芸をさせられた。吾々の時代でも先輩の行事は受け継がれていた。とに

一、維持会員
本年度の維持会費をお願い申し上げます。既納の方には振替用紙を入れないようにしましたが、或は誤って入っておりましたら御勘弁下さい。

二、不明者の調査
各回の幹事さん方には、御連絡申上げましたら、御協力をお願い出来ますよう願って遂行させていただきます。

三、会員名簿発行
昭和五十五年は独立八十周年に当るが、同時に会員名簿改訂発行の年にも当る。しかもその名簿は原則として維持会費完納者には無償で配布という姿勢であるので、今から御承知おき願って財源となる維持会費がこの原則の成否の鍵を握ることになるので各位の御協力を願って遂行させていただきます。

事務局

だより

御冥福をお祈りします。

中26回	小林 志郎 52
中40回	田中 多 52
中27回	水野都生 52
中20回	橋爪 行雄 52
中5回	小坂 良三 52
中29回	桜井 清 52
中37回	山下 雅己 52
中27回	椎名 鮮吾 52
元教員	林 伊那輔 53
中19回	北原 淳行 53
中37回	木下 三朗 53
中19回	朝岡 莊三 53
中16回	吉地 金喜 53
中16回	松村 吉夫 53
中19回	片山 邦雄 53
高6回	熊谷 績 53
高7回	木下 伸 53

会員計報

編集後記

青葉若葉の陰が盛んに茂って参りました。同窓会報第十五号が出来上りました。お届けします。飯田高校も八十周年を迎えようとしております。校舎のまわりの樹木も一段と成長し、本校の歴史を偲ばせます。学校史も編纂の段階に入りました。千百有余の生徒達も、勉強とクラブ活動の両立を目指して頑張っております。会員の皆様様、又折にふれ、母校をお訪ね下さいまして、ご指導ご鞭撻を賜われますようお願い申し上げます。

進路状況

進学(浪人を含む)	
○国立(1期)	
北大	1
北工大	2
筑波大	5
千葉大	14
東工大	6
東大	2
お茶大	1
新大	12
金沢大	2
京大	5
その他	18
計	73
○国立(2期)	
信大	31
山梨大	7
静岡大	3
名工大	1
大6	6
大4	4
大2	2
農工大	16
他	70
計	17
○私立	
早大	33
慶大	18
中理大	17
科大	30
計	380
○短大	37
○各種学校	32
就職(現役のみ)	
県内	11
県外	8
計	19

浪人学級

昨年度は講師の市瀬(英)小林(教)、鶴崎(国)の三先生による熱意溢るる御指導で、四十一名中三十三名が大学へ合格しました。

なお、本年度は四十六名の希望者があり、市瀬(英)山崎(教)、鶴崎(国)の三人の先生にお願いして、五月八日にスタートしました。

紹介品贈寄



- 奥村 晃作歌論集 (現代短歌) Tsuyoshi Hayashi
- 奥村晃作氏(高7回) 林 毅氏(中28回)
- 新中国見聞録 (偶像への挑戦) (古代イスラエルの歴史と伝統)
- 加藤清敬氏(中39回) 小林正之氏(中23回)
- 新基礎化学 ユダヤ人 (その歴史像を求めて)
- 小塩玄也氏(高3回) 小林正之氏(中23回)
- 姫城 第22,23号 (長姫高校生徒会雑誌)
- 北原明文氏(高7回)
- Collected Papers of